

蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成 26 年 1 月 23 日 (木)

第 33 号

発行人 校長 鈴木史良

インフル症状の封じ込め

—— 全校でインフルエンザウィルス撲滅作戦を遂行 ——

冬休み明け（1月7日）に1名あったインフルエンザ罹患による出席停止生徒が翌週の成人の日を含む3連休後に増え始めました。14日（火）1名、15日（水）1名、16日（木）2名、17日（金）7名。この時点で、学級別では2年A組4名、2年B組3名、1年B組3名という状況でした。学級閉鎖の目安20%以下でしたので、放課後及び土、日の部活動を中止し、自宅で休養するよう指導して経過を観察しました。しかし、土日の休み中に1年生2名、2年生2名、今週に入ってから2年生3名と後を絶たないため、校医に相談し、2年生2学級とも24日（金）まで閉鎖することとしました。このことにつきましては21日（火）に「まもメール」及び連絡通知で連絡させていただきました。2年生につきましては自宅で十分休養し、健康回復に努めてください。1、3年生については引き続き経過観察していきますが、今週末の土日を含めて部活動を中止いたします。

21日（火）には3年生にも1名の罹患生徒が出ました。校内ではインフルエンザを封じ込め、これ以上の罹患生徒を出さないために、以下の取組を始めています。この取組は学級閉鎖解除後の1月末日まで継続されます。

- 1 担任は朝の会の健康観察時に体温計を携行し、具合が悪そうな生徒の体温を測定する。測定結果が 37.5℃以上あった場合は保護者に連絡して帰宅させる。
- 2 授業中、風邪症状のために具合が悪くなった生徒についてもすぐに検温し、37.5℃以上の発熱がある場合は、保健室ではなくアイソレーションルーム（1階相談室）に待機させ、保護者に連絡して帰宅させる。
- 3 うがい・手洗いの徹底
 - ①登校後 ②2校時終了後 ③給食前 ④清掃後 ⑤ 体育授業後実際に行ったかどうかを毎日チェック表に記録し、担任が帰りの会で指導する。
- 4 マスクの着用
- 5 教室ドア、手洗い場、トイレ等の消毒
- 6 教室、廊下の換気

※ 2年生の学級閉鎖期間中、清掃は通常のたて割方式から学級単位による特別清掃に変更します。2年生がいないので清掃人数が不足するためもありますが、たて割方式による他学年への感染を防ぐという意図があります。



次に3日間学級閉鎖となった2年生の学習対策についてお知らせいたします。
2年生は1月29日(水)から2月14日(金)まで、他学年+1時間の授業形態とし、規定の授業時数を確保いたします。つまり、この期間は5校時授業の水曜日は6時間、他の6校時授業日は7時間の授業を行います。詳しい時間割は登校する来週月曜日に2年生全員にお知らせします。一日7時間授業という生徒たちにとっては厳しい日程になりますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。

● 「飲む」「打つ」より「洗う」「着ける」のすすめ・・・UAE日本大使館医務官のアドバイス

新型インフルエンザが世界的大流行した2009年、ドバイ日本人学校でも秋口に新型インフルエンザ(H1N1)感染児童生徒が急増し、多くの生徒が出席停止となりました。しかしドバイ保健当局は学級閉鎖を認めませんでしたので、私自身の判断と責任のもとで学級閉鎖を断行した思い出があります。学校をあげて封じ込めに取り組んだ結果、克服できたので安心しました。

この時にUAE日本大使館の医務官にいろいろアドバイスをいただきました。現在の深良中学校でも役立つことがあると思いますので、参考までに掲載させていただきます。

(前略) インフル簡易検査の鋭敏率は70%程度であり、「陰性」と判定されても周囲の状況を判断し罹患している可能性がないとは言えないので、検査結果をうのみにしないことが大切である。

日本の集団感染は10歳~14歳の患者が圧倒的で、感染場所は学校内及び学校関連施設が大多数である。家庭における異世代感染はまれだが、兄弟姉妹間の感染はあるので注意を要する。今後の重点対策としては、学校現場における感染予防策、ハイリスク患者(妊婦や持病のある者)への対応が挙げられる。

学校における対策として、以下の事柄を実施していくことが重要である。

- ・手洗い、マスク、咳エチケット、うがいと喉の乾燥予防
- ・学級、学年、学校閉鎖 家庭での前学校予防
- ・換気、湿度管理(40%以上に保つ)
- ・発熱児童生徒の早期把握、保健室以外の隔離室を設営

手洗いは石けんと流水で1日10回以上行う。アルコール消毒とは効果に差はない。マスクは鼻、口、あごを覆い、鼻筋をフィットさせることが重要で、はずす場合もマスク表面に触らず、ひもを持ってはずす。うがいは喉を潤すため、ばい菌を外に出すために行うが、うがい薬と水では効果に差がないことが医学的に証明されている。

学校(学級)閉鎖については、感染封じ込め対策として欧米でもイギリスを中心に再評価されてきている。1人の患者発生から、同一集団内で7日以内に2人目の患者が発生した時に学校(学級)閉鎖を考えていく。閉鎖期間は最後の患者確認から7日間とすることが医学的理想である。また体温が37.5℃ある場合は医学的発熱といえるので、このような場合は個人的に登校を差しひかえたほうがよい。

高熱時にタミフルを服用すると熱が下がる時間は早いですが、まだ喉にウィルスが残っている場合があるので、どの薬であっても7日間の自宅療養が必要である。

タミフル、リレンザとも服用後熱が下がればよいが、36時間熱が続いたら即病院で診てもらおう。
タミフルを「飲む」ワクチンを「打つ」より、手を「洗う」マスクを「着ける」を!